

今月のイチオシ 鉄道模型

2026.09

“飯田線専用”の国鉄形電車 119系

写真：辻森章浩 協力：月刊「鉄道ファン」

○秘境駅をめぐる飯田線

愛知県の豊橋から長野県の辰野まで、全長195.7kmを結ぶ飯田線。急勾配・急曲線の続く山岳地帯を縫うように走り、数多くの“秘境駅”を持つ長大ローカル線として知られています。4つの私鉄をルーツとし、沿線の集落ごとに駅が設けられたことから、駅間距離が大都市の通勤線区並みに短いのも特徴です。また、区間によって輸送量にも大きな差があるため、短編成を柔軟に組める旧形国電が長く活躍してきました。旧形国電の博物館」とも呼ばれた飯田線に、新たな主役として登場したのが119系です。



○旧形国電からの近代化

119系は飯田線での運用に特化して設計されたため、複数の線区で運用される車両が多い国鉄形電車において珍しい存在と言えます。

1M方式でクモハ119+クハ118の2両編成を基本に、クモハ119をもう1両加えた3両編成も用意。輸送量に応じた柔軟な編成に対応しました。足回りは短い駅間での加速力を重視した通勤形に近い設計ながら、車内はセミクロスシートを備えた近郊形電車としてまとめられました。

製品のポイント①

AU75形クーラーを搭載した「0番台」



10-2226 特別企画品
119系 0番台 +5000番台
リバイバルカラー 4両セット
¥26,200(税抜)/¥28,820(税込)
JR東海承認申請中

昭和61年(1986)、2両編成の一部が東海道本線静岡地区へ転用されました。これらの編成は順次AU75形集中式冷房装置を搭載しましたが、車両番号は0番台のまま変更されていません。ほどなくして飯田線へ復帰し、他編成とともに晩年まで活躍しました。この仕様の編成を、5000番台リバイバルカラーとともに特別企画品に収録しています。

製品のポイント②

両運転台化改造と分散式冷房装置の搭載



写真：辻森章浩 協力：月刊「鉄道ファン」

JR東海承認申請中

10-2225 119系 5000番台 飯田線 2両セット ¥12,200(税抜)/¥13,420(税込)
10-2256 クモハ119 5100番台 飯田線 2両セット ¥14,200(税抜)/¥15,620(税込)

3両編成のクモハ119のうち各1両は、昭和62年度(1987)に両運転台化され、100番台に区分されました。単独運転が可能となり、輸送量に応じた運用や列車増発に貢献しました。その後、100番台全車と、非冷房のまま残っていた0番台には、平成元年(1989)からC-AU711D形分散式冷房装置を搭載し、それぞれ車両番号に5000を加えた5000番台・5100番台となりました。

編成例

両運転台の5100番台をはじめ、1両～4両まで多彩な編成で活躍した119系。製品各種を組み合わせ、模型でも柔軟な運用をお楽しみください。



写真：山辺 修一 協力：月刊「鉄道ファン」

セット構成

←辰野

クハ118 5023 クモハ119 5031 10-2225 2両セット
クモハ119 5105 クモハ119 5103 10-2256 2両セット
クハ118 15 クモハ119 23 クモハ119 5008 クモハ119 5008 10-2226 リバイバルカラー 4両セット

編成例

